



高知市の建設業者がミクロネシア連邦・チ
ューク州政府に重機3台を贈った寄贈式
(香南市香我美町岸本＝県提供)

ミクロネシアの道路整備に

本県とつながりが深いミクロネシア連邦チューク州の道路整備を支援しようと、高知市の建設業者2社が5日、同州政府に重機計3台を寄贈した。

本県と同国は、同市出身の森小弁（1869～1945年）が日本人として初めて移り住んだ縁で、官民が友好関係を構築。大統領となった小弁のひ孫、エマニエル・モリ氏ら有力者が来高してきた一方、昨年1月には浜田省司知事も国交樹立35周年に合わせて同国を訪問した。その際、小弁の子孫が多く暮らすチューク州が道路整備用の車両を必要としていると聞き、県内事業者の協力で贈るこ

高知市の建設2社 重機寄贈 州政府に

とにした。

三谷組がショベルカーと地面をならすモーターグレーダー、福留開発がショベルカーを寄贈。県が、ふるさと納税型クラウドファンディングも活用して移送費用を負担した。1～5日には州政府の技術職員2人が来高し、両社の社員から技術指導などを受けた。

5日、香南市で行われた寄贈式には浜田知事らが出席。同国の在日大使館の末永邦雄一等書記官は「道路改修は切実な課題で、支援ありがたい。民間同士やビジネスの交流がさらに進んでほしい」と話していた。

（大山泰志）